

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2779500475		
法人名	社会福祉法人 野のはな		
事業所名	グループホーム 野のはな		
所在地	阪南市 和泉鳥取950番7		
自己評価作成日	平成27年4月20日	評価結果市町村受理日	平成27年8月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年7月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・認知症状の進行によって自立した生活が困難になった状況でも、出来る支援を1つずつ探し、残存機能を活かした支援に取り組んでいる。 ・家庭的な環境作りと尊敬ある態度で、本人の安心感や、心身の充足感を日常的に大切にすることを欠かさずケアに当たっている。 ・チーム全員が気付き、振り返り、信頼関係を持ち合いながらより良い支援提供に取り組んでいる・入居者の体調管理の徹底と主治医との連携を密に図っている。 ・ケアの目的をスムーズに伝えるのではなく、本人の心と身体が自然に動く「言葉」「話題」を投げかけ、明るく笑顔の対応を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームの優れている点としては、開設から12年経過で、入居者の高齢化と要介護度が上がり、グループホーム本来のあり方としての共同生活が困難になっている現実の状況にあっても、「いつの日も自分らしく生き生きと」の理念を活かして、尊敬ある人生を安心して過ごせるよう、日々試行を繰り返しながら、利用者に寄り添うケアに努めていることがあげられる。そのため、管理者、計画作成担当者は、サービス計画にそった支援実施と見直しにより、本人本位の支援に取り組むとともに、職員研修を重視して実践し、月次の目標設定や評価などを重ねて、職員のスキルやレベルアップに取り組むとともに、全員の信頼関係を深めることに腐心してモチベーションの向上も図っている。また、生協事業グループの特色を活かして、一階のデイや隣接の介護付き住宅との交流や、福祉事業所関連の喫茶店に出かけたり、生協の食材利用など相互の連携協力を活用していることが工夫点としてあげられる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム野のはなの理念でもある「いつの日も自分らしく生き生きと」を常に心がけ、家庭的な雰囲気の中で生活して頂けるよう寄り添い支援を行っている	事業所理念「いつの日も自分らしく生き生きと」を、掲げ、理念に基づく実践にむけて、月次の事業所目標を設定し、職員が個別に達成目標を定めて管理者が評価を行い、事業所全体のケアの質的向上に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年6回開催の運営推進委員会を中心とした情報交流を図っている。入居者自身の参加については出来る範囲の中で実施している	階下のデイサービスや隣接の介護付き住宅などとともに事業所前で、地域の秋祭りのだんじり見物を楽しんだり、音楽や演芸などの様々なボランティア来訪による交流もある。小学校の運動会にも招待を受けるが、入居者の要介護度が上がり、参加が困難になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年6回開催の運営推進委員会にご出席の地区自治会長又は市職員との集まりの中で年間研修の報告や、情報提供を頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進委員会にて、報告・議論・要望・助言があった内容については、積極的に実施し質疑、応答内容にも耳を傾けている	会議は5地区の自治会代表、福祉委員、市職員、利用者家族、管理者、職員等の参加で、年6回隔月に開催している。運営上の報告や、質疑応答などで双方向的な会議となっている。管理者は、知見者として他のグループホーム関係者等との相互出席も検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	提出書類は出来る限り窓口まで持参し、情報交換を行うことを常に心掛けている	介護保険関係の申請代行等で担当課を訪問したり、運営推進会議に市職員の参加があり、連携を図っている。毎月、介護相談員の訪問による助言等を得ており、年2回の相談員報告会も当事業所建物で開催している。行政主催の研修会に参加して運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い、職員会議等を通じ職員には周知徹底したうえで業務に取り組んでいる	事業所は身体拘束は行わない方針を徹底しており、定期的に研修を行い職員全体で共有・実践している。エレベーターの昇降は自由で、玄関の日中の開錠は、事業所開設時から実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、職員会議等を通じて一人ひとりの様子、身体チェックの徹底をすることの周知に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間事業所計画に組み入れレジメを配布する等で全員参加しその後、事業所内研修として職員2名に報告をあげて貰い、周知徹底に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、担当者より確認し、変更の際ご家族には電話での詳細連絡をとり文書も発送し、その際は短信を添えている。又直接ホームにお越し頂き説明させて頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、家族会等の場を作り、その中で計画作成担当者介護職員への相談や報告又は要望や助言等も頂いている	ケアプラン見直し時、家族の来訪時、年1回開催の家族会の際などに家族の要望や意見を聞き、運営に反映させている。毎月写真入りの「野のはな」だよりで行事などの報告を送付している。家族からは、密な連絡報告に好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議と事業部会議を設置している又管理者は個人的に意見や提案の出来る体制を取っている	管理者は、日頃から職員間のコミュニケーションを深めて、率直に話し合える職場環境づくりに注力している。毎月の会議で、職員の意見や提案等を聞く機会を設け、提案などを上申して運営改善に反映させている。毎月職場研修を実施し、スキルやレベル向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に面談を実施し、働き良い職場、働き良い時間帯等の相談を受けながら環境良い職場作りに努めている。必要の際は意見交換を行う機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体として、年4回の内部監査を実施し、必要な指導を行い、外部・内部研修又は実践を取り入れて職員の質の向上を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村主催の研修会への参加や、介護相談員報告会等に出席し、得た情報や助言等をカンファレンス・職員会議で職員に伝達している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・計画作成担当者・介護職員にて情報を共有し「寄り添うケア」「傾聴ある態度で」を心掛け、家族的な環境作りを崩さぬよう配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要時、ご家族に連絡を取り、その都度対応している又家族なら受け入れて頂けるケアについてはお願いする時もある		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族会を通じての意見交換と、その時々での対応で相談や助言等を頂きながら安心な暮らしの確保に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員間の情報を共有し統一ケアに取り組み、家庭的な雰囲気や崩さぬよう配慮している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者・計画作成担当者・介護職員が中心となり実施している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人又は家族からの情報を収集し、職員間で情報を共有し対応している	入居前の、川柳の同好の趣味である友人の来訪がある方や、家族と墓参りに行ったり、米寿祝で白浜へ子や孫と一泊旅行に出かけた利用者もいて、馴染みの人や場所との交流継続を大切に支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	管理者・計画作成担当者・介護職員にて情報を共有し、意思疎通が困難な方に代弁役となり関わりを閉ざさないように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要内容により、管理者・計画作成担当者が中心となり、体制は整えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の日常生活のペースに配慮しているが現在では認知症状の進行から自己決定が出来にくくなって来ている為家族等に相談する機会が増えて来ている	日常の支援の中で、暮らしの希望・意向の把握に努めているが、現状は意思の表出可能な方は2名程度で、まったく困難な方が4名あり、困難な場合は、表情や心身の状況把握などから、自分がしてもらってうれしいと思えることを、利用者本位に寄り添って努められるよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンス・職員会議を通じ、一人ひとりの様子を把握する事の徹底に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	高齢化、認知症状の進行がある中で、個々に合った暮らし方を日々模索している、常に寄り添いケアを心掛けている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人又はご家族との何げない会話からの情報収集し、医師・看護師またご家族、その関係者との話し合いにより、新計画を作成している	アセスメントを付与した様式のサービス計画の支援内容に基づき、月1回計画作成担当者と職員でカンファレンス、モニタリングを行っている。サービス担当者会議を行い、医師の意見や、家族の意向を反映した計画見直しを実施している。サービス計画は長期は1年、短期は6か月を基本に目標を設定し、更新時や状況変化時は随時に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンス・サービス提供記録、職員会議記録を基に本人・ご家族・その他関係者との話し合いを通じ、より良い介護計画を検討している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所として、必要である可能な限りの支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	計画作成担当者と管理者、介護職員（行事担当）が中心となり実施している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	5人の主治医により月2回の往診を受けている往診以外の緊急時も診察可能で、必要に応じて他機関の受診も行っている	元からのかかりつけ医に、職員の同行支援による通院で外来受診している方が1名いる。他の利用者は提携医療機関の複数の医師による月2回の往診を受けている。歯科の診療や口腔ケアで週1回の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	建物1階のデイサービスの看護師との連携も取れ毎日（月～金）状態確認を行い医療連携体制も整え、24時間主治医に連絡できる体制としている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	共同生活が送れる範囲まで回復された時点で、病院関係者と情報を交換する体制を整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関と連携し、本人・家族の思いを第一に考え、ケアマネと共にその為の支援を行う	家族の希望もあり、医療との連携で過去1名の終末期ケアを行い、ホームで看取った事例がある。入居歴が長く利用者の高齢化で、今後も終末期ケアに取り組む機会が増えることを考慮して、管理者は医療・看護・介護連携の進め方や、重度化時における本人・家族への説明と文書による同意等につき、あらかじめ検討することを課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要である研修には、全ての職員に参加してもらい、必要に応じて実技講習も行い事業所内研修でフィードバックを行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の（日中・夜間想定）避難訓練を実施し、緊急時対応マニュアルを作成し、職員全員に周知徹底している	日中と夜間を想定した消防避難訓練を年2回行い、うち一回は消防署立ち合いで実施している。隣接の介護付き住宅との、協力体制も築いている。スプリンクラー、自動火災報知機、非常通報装置、消火器等を設置している。	法定の消防訓練を年2回行っているが、災害時に全職員が具体的即応が出来るよう、定例会議や職員研修の機会などに、机上想定を含めてミニ訓練を頻回に行うことを期待したい。併せて水、非常食、緊急時に必要な品物等の備蓄も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「尊厳の保持」「傾聴ある態度」「プライバシー保護」については、職員へ周知徹底している又年間研修計画に組み込んでいる	高齢者の尊厳を大切に、基本的な接遇のマナーや声掛け、言葉遣い等には常に気を配っており、管理者はスタッフ間の職場での言葉遣いにも留意している。事業母体の内部監査でも人格の尊重、尊厳の保持を特に重視しており、当ホームはこの項目も含めて、グループ内27部門中1位の評価を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者が自己決定の出来る言葉掛けを投げかけるよう職員に周知徹底している意思疎通の困難な方には、その方の思いを代弁した支援を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならない事を常に、職員に徹底させ、利用者のペースに合わせた支援、個別支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア時、特に身だしなみ整容等には職員に徹底している。又洋服を選んで頂いたりその時々を楽しんで頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることを分担して、食事もそれぞれの体調に合わせた形態で提供し、食器拭き等も率先してお手伝いして頂き常に関って頂いている。	地元のスーパーやネット通販、母体の生協から食材を購入し、昼食は7月からホーム階下のデイサービスで調理し、朝・夕食はホームの台所で、職員が手作りで調理している。要介護度が進み、現状はきざみや、ペースト対応、見守りや摂食介助が必要な方が増え、職員と一緒に同じものを味わいながら食べる状況にない。利用者の食事づくり参加も困難になってきている。行事食を皆で作って楽しむ機会もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	サービス提供記録簿を通し食事面の周知徹底チェックを行い又週一回のカンファレンスで、意見交換し、利用者に応じた支援を提供している。夜中の水分も飲みたい時に飲める配慮も行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの残存機能を生かした方法で口腔ケアを実施している。 週一回の歯科検診でアドバイス等も受け支援している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを日々のチェック表で把握し、出来るだけトイレで排泄出来るように、会議等で検討している。	チェック表の記録で夫々の排泄のパターンやリズムを把握・共有してプライバシーに配慮して、さりげないトイレ誘導で排泄を促している。現状は排泄がほぼ自立の方が2名で、おむつ着用の方が3名、他4名はリハビリパンツ・パット併用である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニュー、ケア内容にも十分配慮し、主治医・ご家族にも相談し飲みやすいジュース等個々に応じた支援も行い、排泄パターンに応じて適時、適量の下剤の量となるよう主治医と相談する		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ケアに沿った入浴を行い、体調変化で機械浴に変更するなど安全を優先している。行事等が重なるとその都度入浴変更を行っている	週2回は入浴が出来るように、支援している。浴室は個浴槽もあるが、地下にあるデイサービスと共同の浴槽（一般浴と機械浴）を時間を分けて利用し、午後から入浴支援を行っている。一般浴の浴槽は広く、女性2名と男性1名が時間を分けて利用し、機械浴利用者が6名である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思を尊重した上で、生活にメリハリとリズムをつけることが出来る様に日々検討している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の使用目的については、申し送りで徹底している。また、何か変化が見られた時はすぐに主治医に相談できる体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員全員が個々の生活歴を職員全員が把握し、無理強いはなく、出来ることを積極的に行って貰えるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域との交流を図る為に、季節に応じた外出、ドライブ、近隣への散歩等を実施している	利用者が日常的に少しでも気分転換が図れるように、表の庭に出て、外気に触れるよう職員は心掛けています。困難な場合は、2階の多目的ホールや一階のデイルームを訪ねることもある。花見などの季節の行事で出かけたり、母体グループが経営しているベーカリーカフェで、喫茶を楽しむ取り組みも定例化している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は所持していない 必要に応じて、事務所が立替を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者宛に届き物やお手紙等あった際、お電話にてお話をしているまた代弁しお伝えしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出や、催し物の写真等に言葉を添えて展示したり、季節に合わせた飾り付けを工夫する等、居心地の良い空間作りに力を入れている	建物3階にリビング兼食堂を中心に、台所、トイレがあり、周囲に居室を配置し、エレベーター、内階段と廊下奥の非常階段で移動できる。リビングは少し狭いが、2階部分の交流スペース、トイレ、浴室と地下部分の浴室を利用でき、共有空間は閉鎖的でない。壁に貼り絵やイベント時の写真等を飾り、廊下にはソファを置き、居心地よく過ごせるような工夫をしている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間にソファを設置している。また2階共有フロアにて過ごして頂ける様な環境作りも実施している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を持ち込んでもらい、安心した暮らしを提供できるよう支援している	居室にはベッド、エアコン、カーテン、ナースコールが設置され、洗面台も備えてある。各室とも天井の中央部に天窗があり、サッシの腰窓からの採光と相まって明るすぎるくらい日差しが入る。居室内は使い慣れた家具や、お気に入りの飾り物などを置き、居心地よく暮らせる配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のタンスに、利用者が理解出来るシールを貼る等の工夫をし、自立した生活を送れるように支援している。		